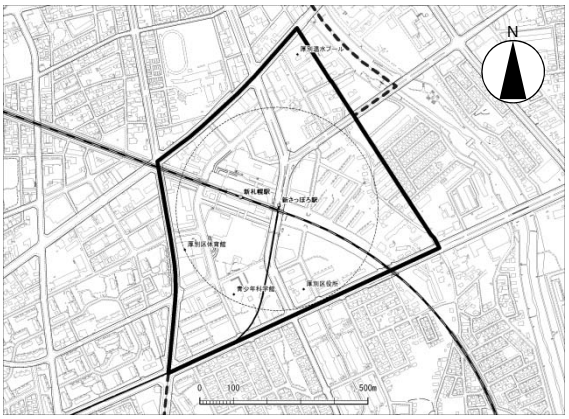
■都市機能誘導区域（地域交流拠点）・詳細図

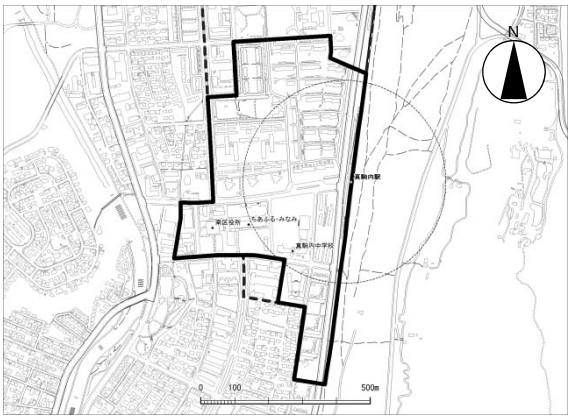
## 1．新さっぽろ




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

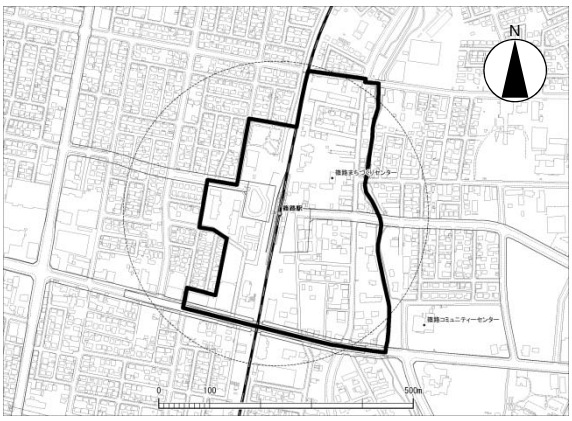
## 2．真駒内




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

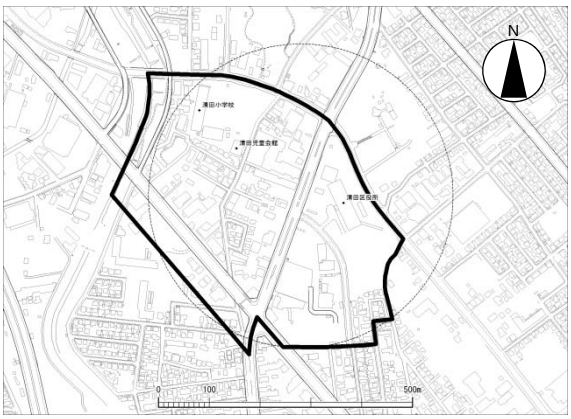
## 3．篠路




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

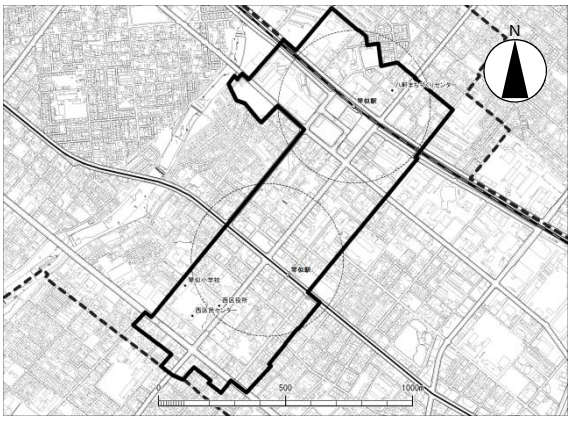
## 4．清田




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

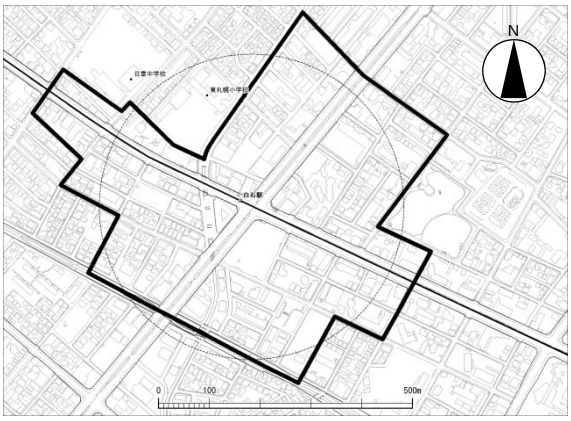
## 5．琴似




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

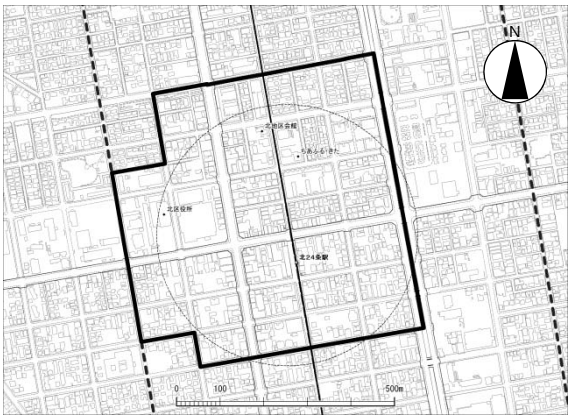
## 6．白石




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

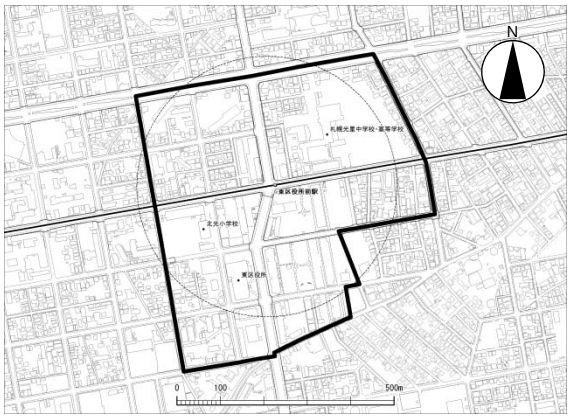
## ７．北２４条




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

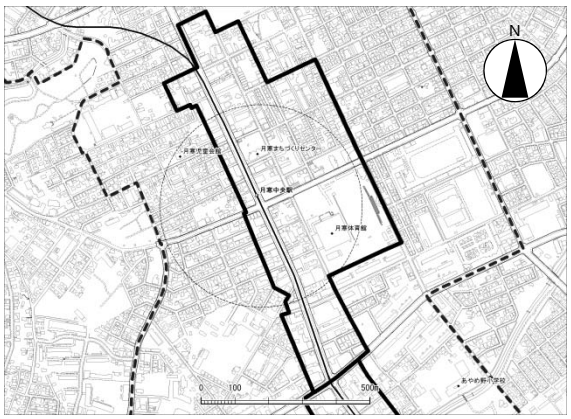
## ８．光星




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

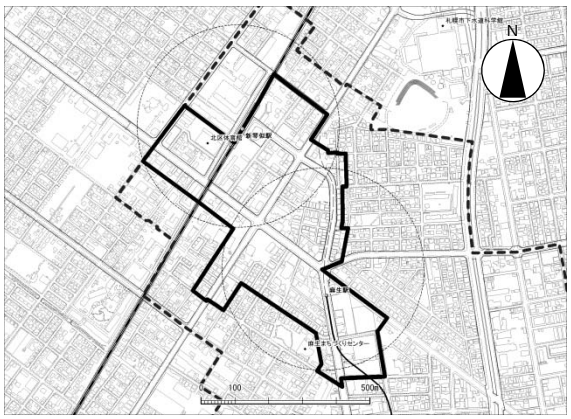
## ９．月寒




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

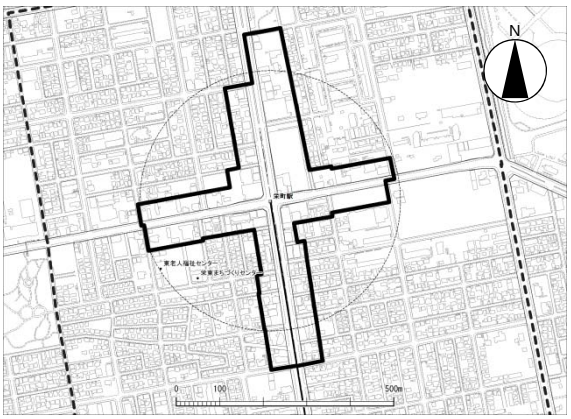
## １０．麻生・新琴似




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

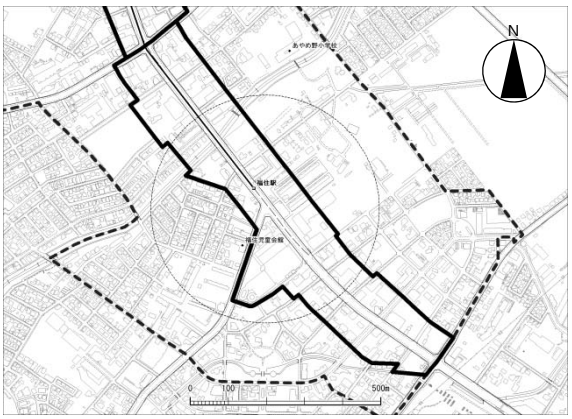
## １１．栄町




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

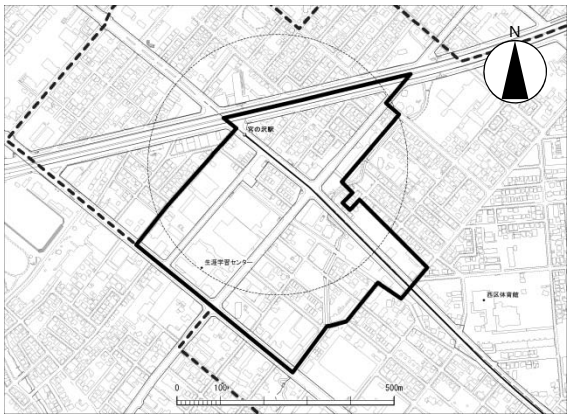
## １２．福住




| | |
|---|---|
| 都市機能誘導区域 | |
| 集合型居住誘導区域 | |

| | |
|---|---|
| | 300m圏 |

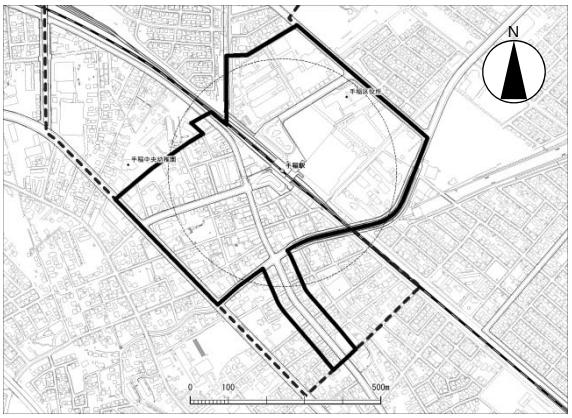
## １３．宮の沢




| | |
|---|---|
| □ | 都市機能誘導区域 |
| ⬚ | 集合型居住誘導区域 |

| | |
|---|---|
| ◯ | 300m圏 |

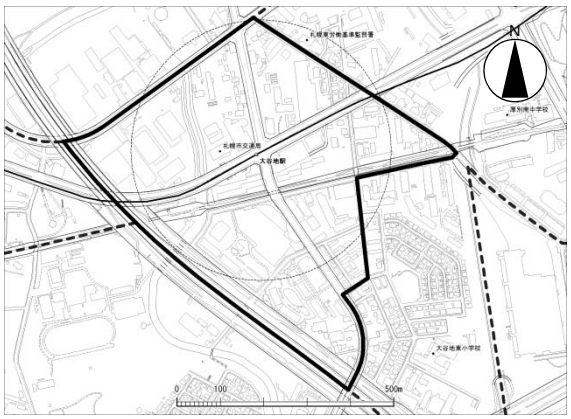
## １４．手稲




| | |
|---|---|
| □ | 都市機能誘導区域 |
| ⬚ | 集合型居住誘導区域 |

| | |
|---|---|
| ◯ | 300m圏 |

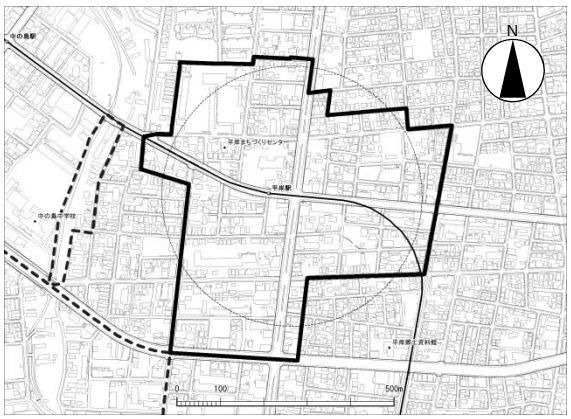
## １５．大谷地




| | |
|---|---|
| □ | 都市機能誘導区域 |
| ⬚ | 集合型居住誘導区域 |

| | |
|---|---|
| ◯ | 300m圏 |

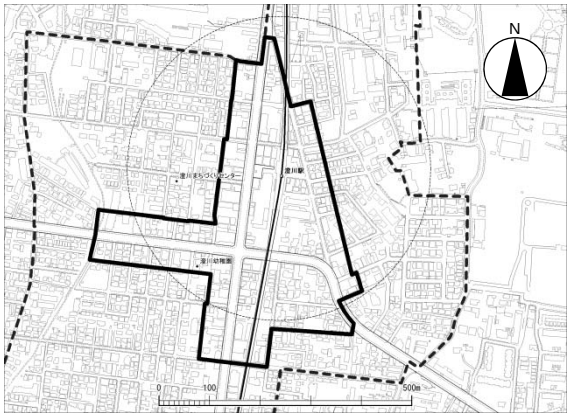
## １６．平岸




| | |
|---|---|
| □ | 都市機能誘導区域 |
| ⬚ | 集合型居住誘導区域 |

| | |
|---|---|
| ◯ | 300m圏 |

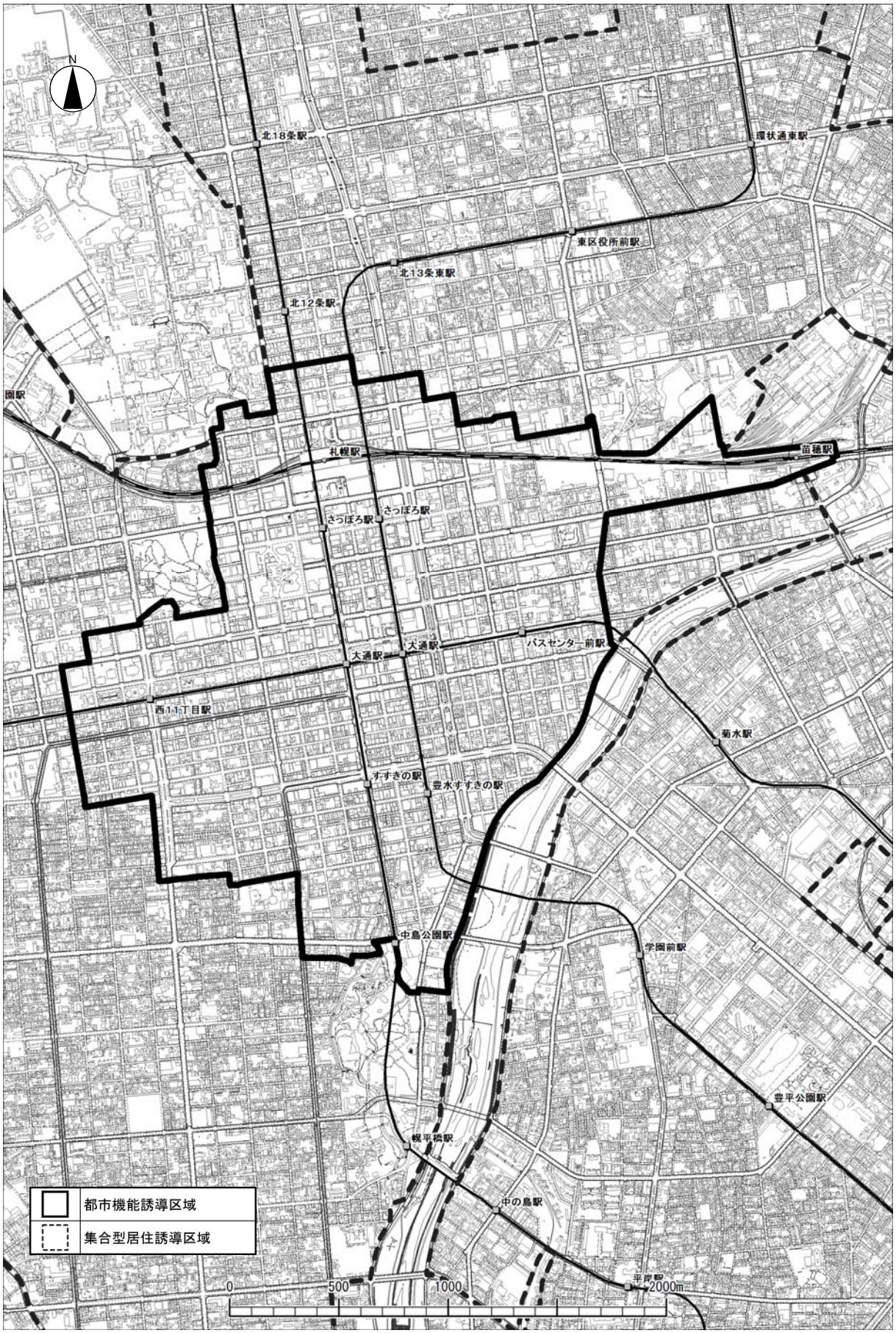
## １７．澄川




| | |
|---|---|
| □ | 都市機能誘導区域 |
| ⬚ | 集合型居住誘導区域 |

| | |
|---|---|
| ◯ | 300m圏 |

■都市機能誘導区域（都心）・詳細図



■人口の動向（過去の傾向）

【転入人口（H12～22）】＜世代別＞

・転入人口を世代別に比較すると、生産年齢は他世代と比べて、中央区や地下鉄沿線などの利便性の高い地域に多く集まっている傾向があり、年少や老年については郊外部の新規開発地などに多く集まっている傾向があります。

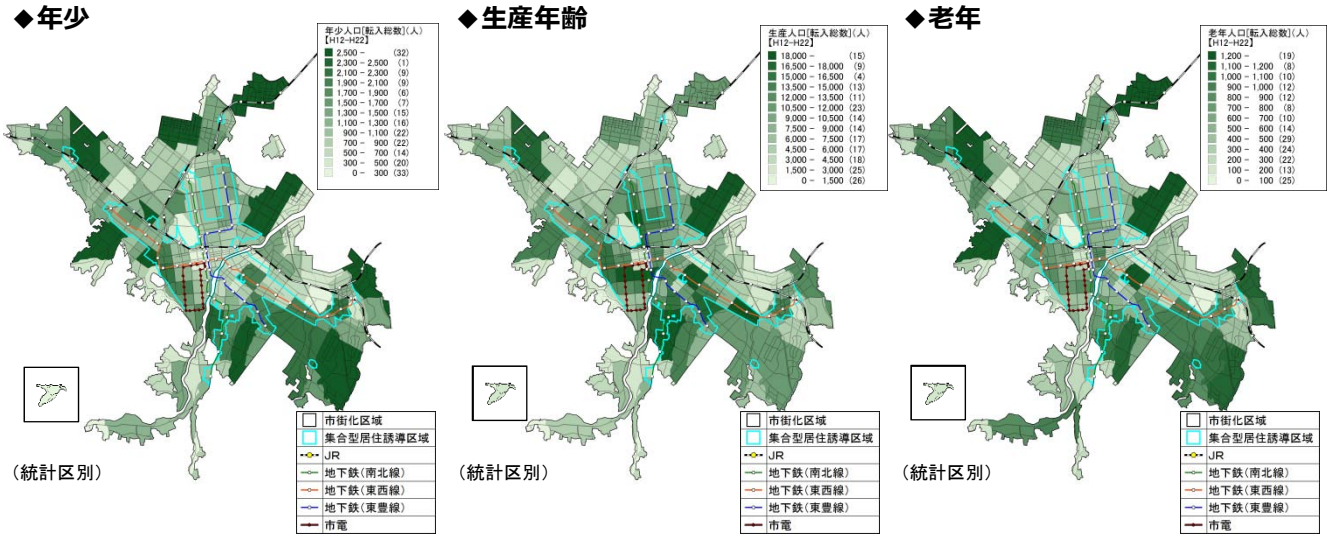



図　世代別の転入人口（H12～22）＜世代別＞

【転入人口（H12～22）】＜世代・転入元別（道外から）＞

・道外からの転入人口を世代別に比較すると、年少と生産年齢は同様の傾向がみられます。

・老年については、転入数自体が少なくなっています。

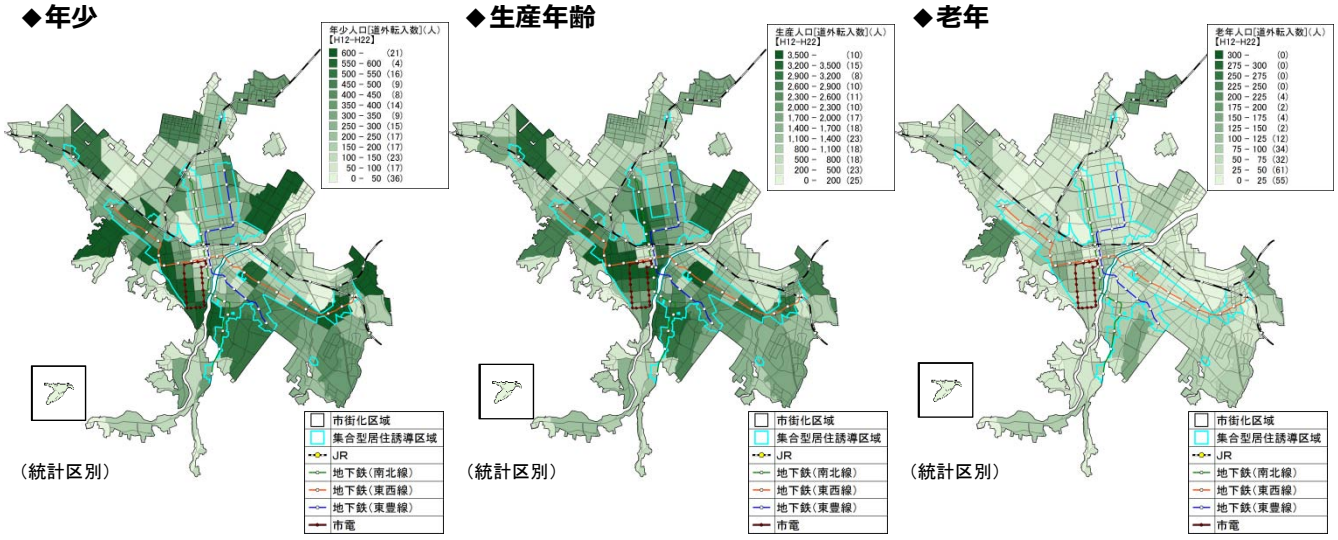



図　世代別の転入人口（H12～22）＜世代別・転入元別（道外から）＞

【転入人口（H12～22)】＜世代別・転入元別（道内から）＞

- 道内からの転入人口については、世代別に傾向が異なっています。
- 生産年齢は他世代と比べて、中央区や地下鉄沿線などの利便性の高い地域に多く集まっている傾向がありますが、年少や老年は比較的郊外部に分散しています。

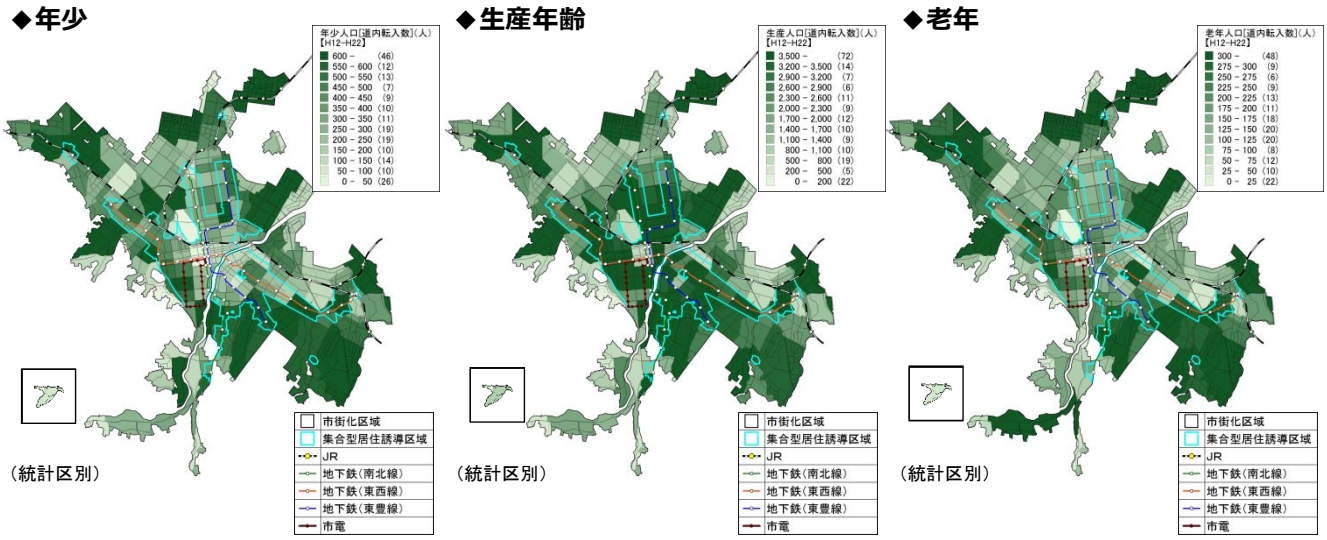



図　世代別の転入人口（H12～22）＜世代別・転入元別（道内から）＞

【転入人口（H12～22)】＜世代・転入元別（市内別区から）＞

- 市内別区からの転入人口については、世代別に傾向が異なります。
- 生産年齢は他世代と比べて、中央区や地下鉄沿線などの利便性の高い地域に比較的多く集まっている傾向があり、年少は郊外部に多く、老年は利便性の高い地域にも郊外部にも多くなっています。

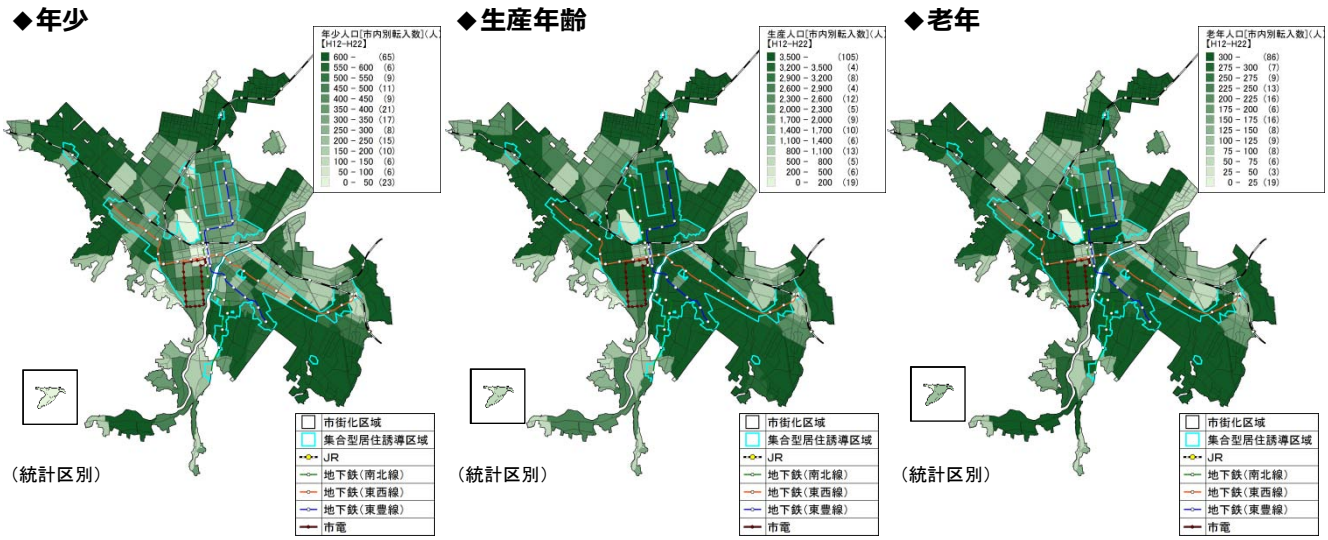


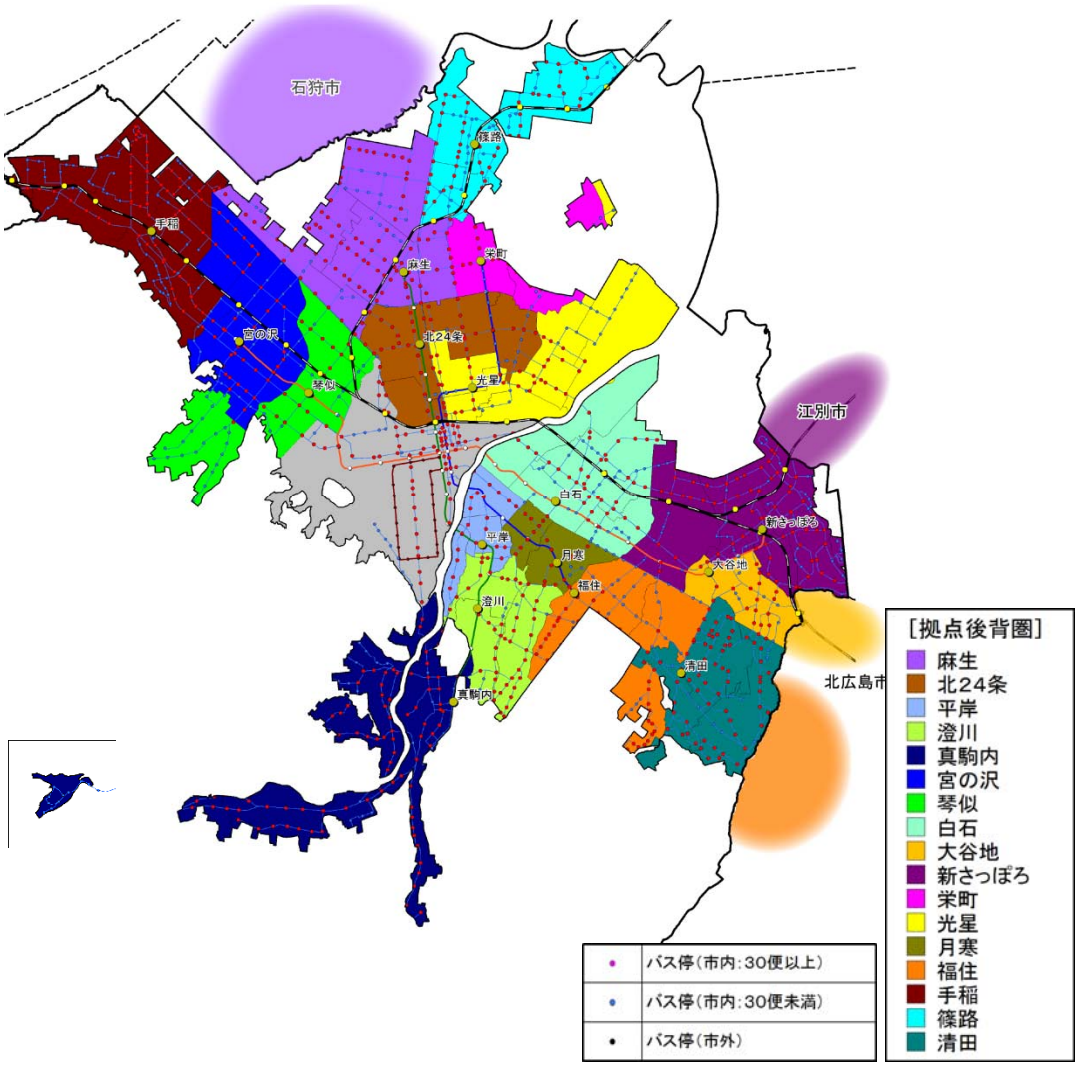

図　世代別の転入人口（H12～22）＜世代別・転入元別（市内別区から）＞

■地域特性の分析

地域特性を把握するため、各地域交流拠点において、後背圏を含めた特徴や都市機能誘導区域内の特徴などについて整理しました。

【地域交流拠点後背圏の選定】

・地域交流拠点の後背圏（各拠点のまちづくりを展開する範囲）を「まちづくりセンターエリア単位」を基本に選定しました。



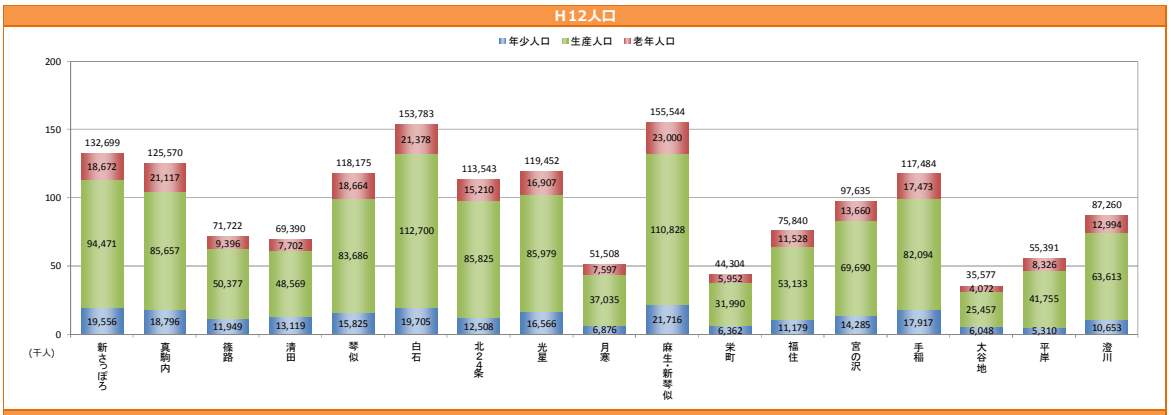

**◆地域交流拠点後背圏について**

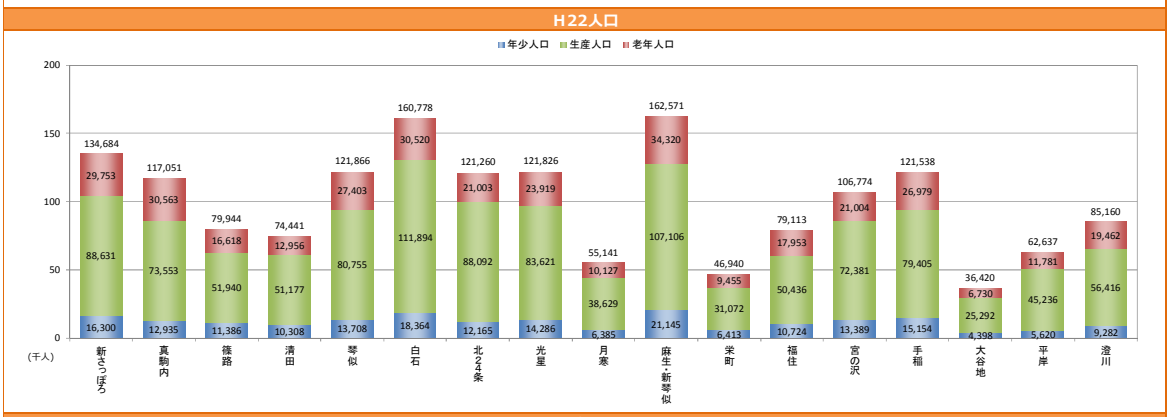
○拠点後背圏の選定は、バス交通を基本にまちづくりセンターエリア単位で実施。

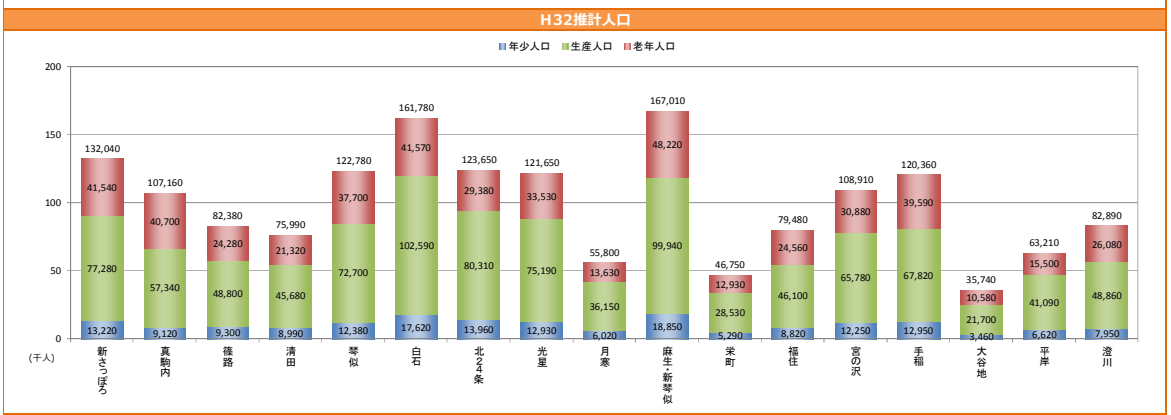
○まちづくりセンターエリアごとに、地域交流拠点を通過する片道 30 便以上のバス路線（バス停）を整理し、拠点後背圏を選定。

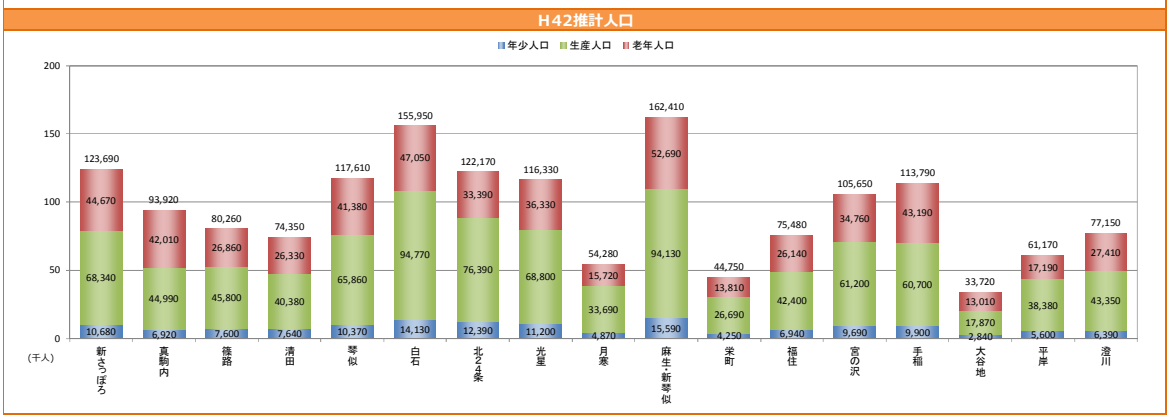
○まちづくりセンターエリア内に拠点通過路線が複数存在する場合等については、個別に便数等の精査を実施し拠点後背圏を選定。

## 【地域交流拠点後背圏人口】

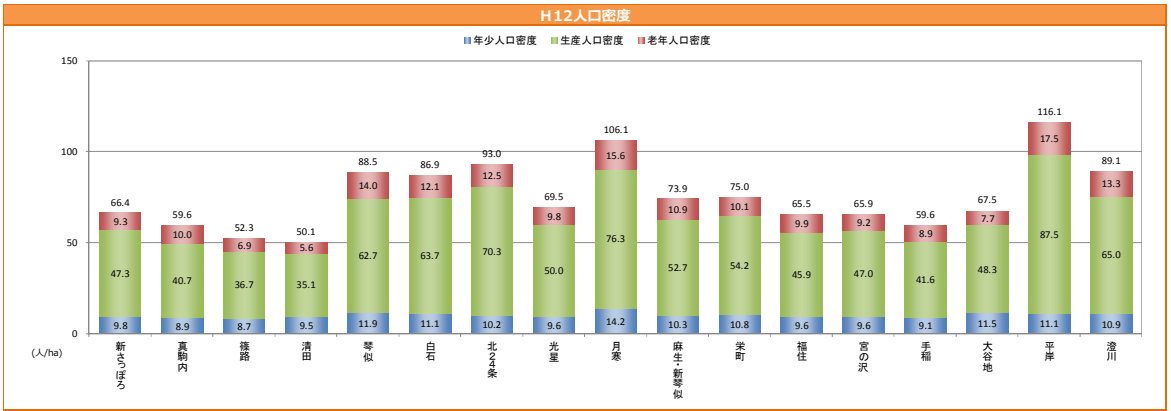


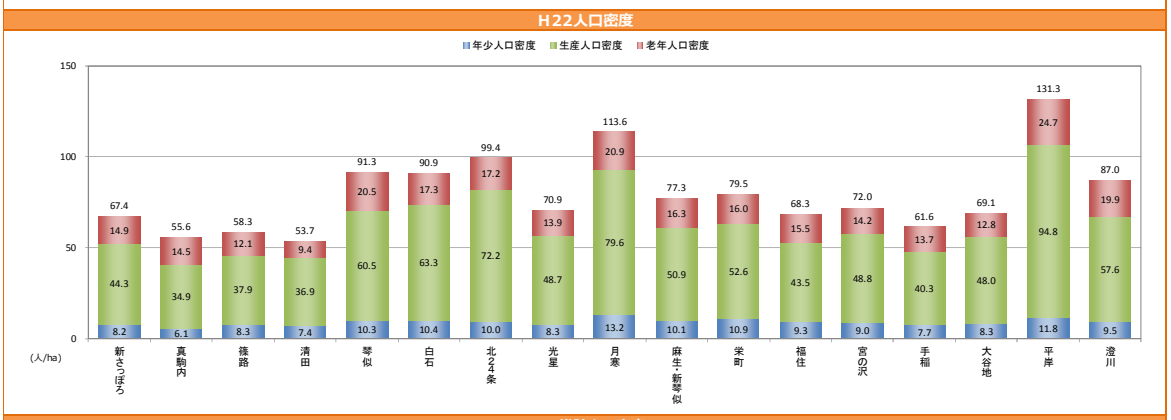



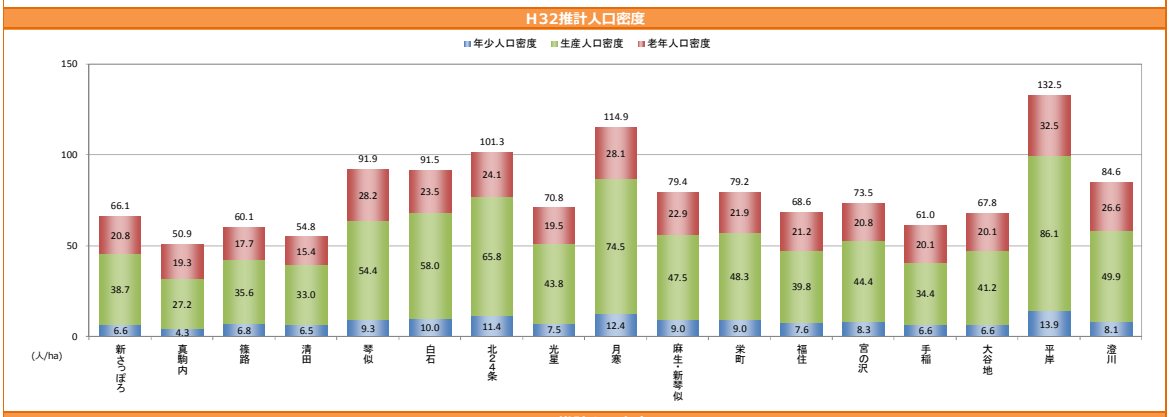



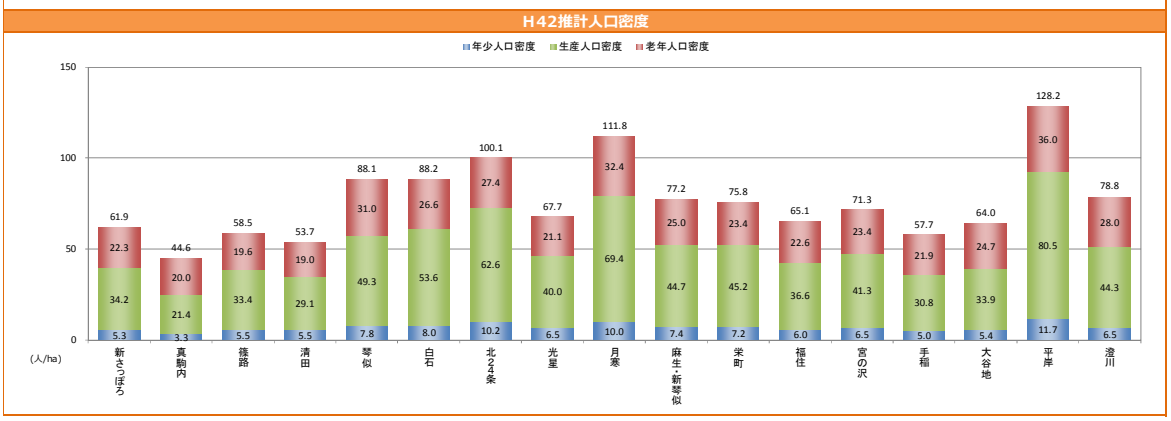



## 【地域交流拠点後背圏人口密度（拠点別比較）】



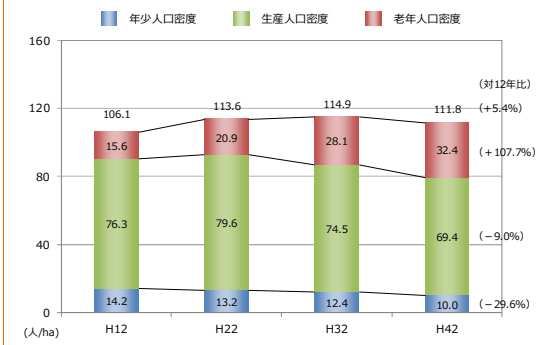



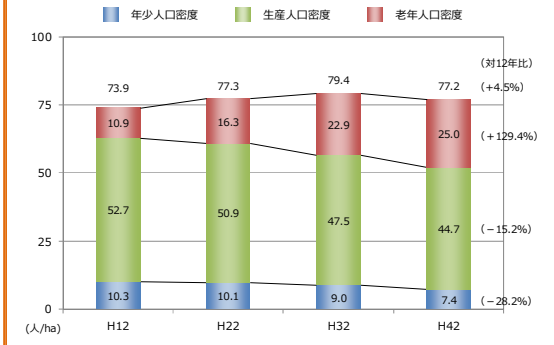



## 【地域交流拠点後背圏人口密度（年度別比較）】

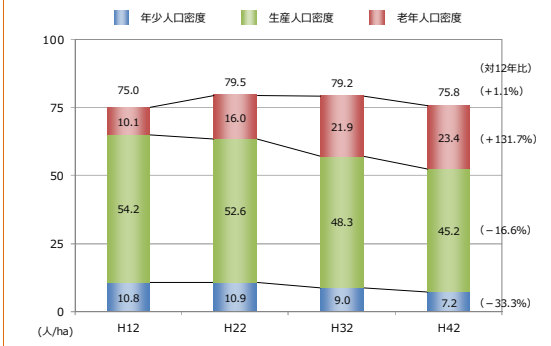
## 9 月寒



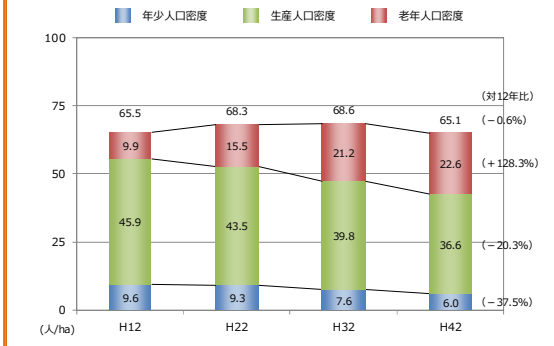

## 10 麻生・新琴似



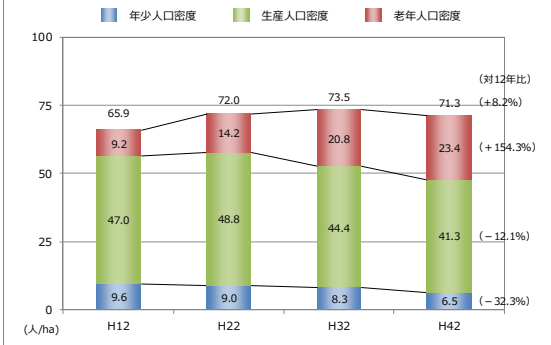

## 11 栄町



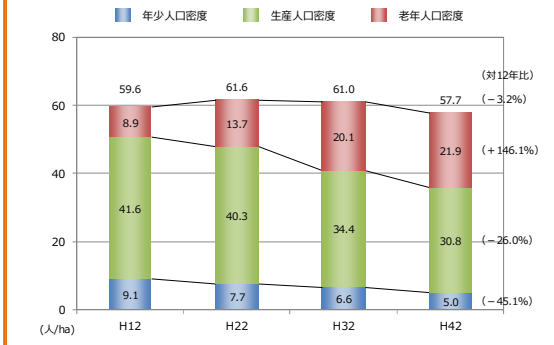

## 12 福住



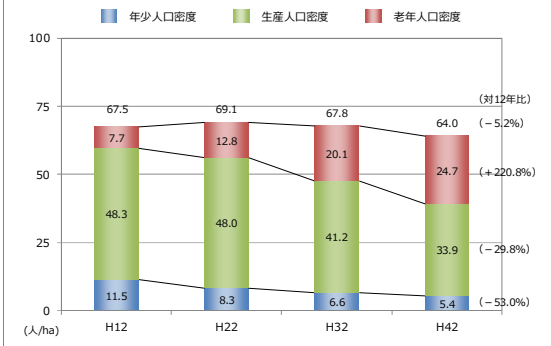

## 13 宮の沢



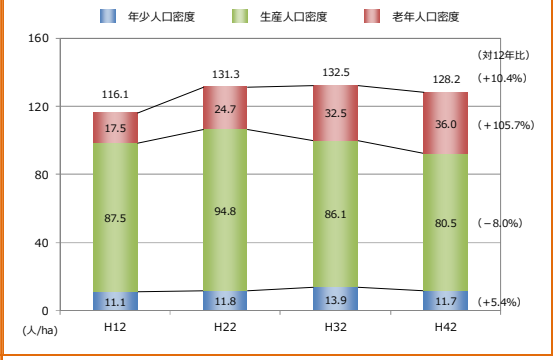

## 14 手稲



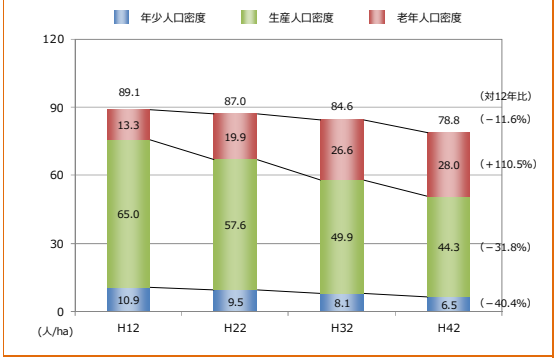

## 15 大谷地



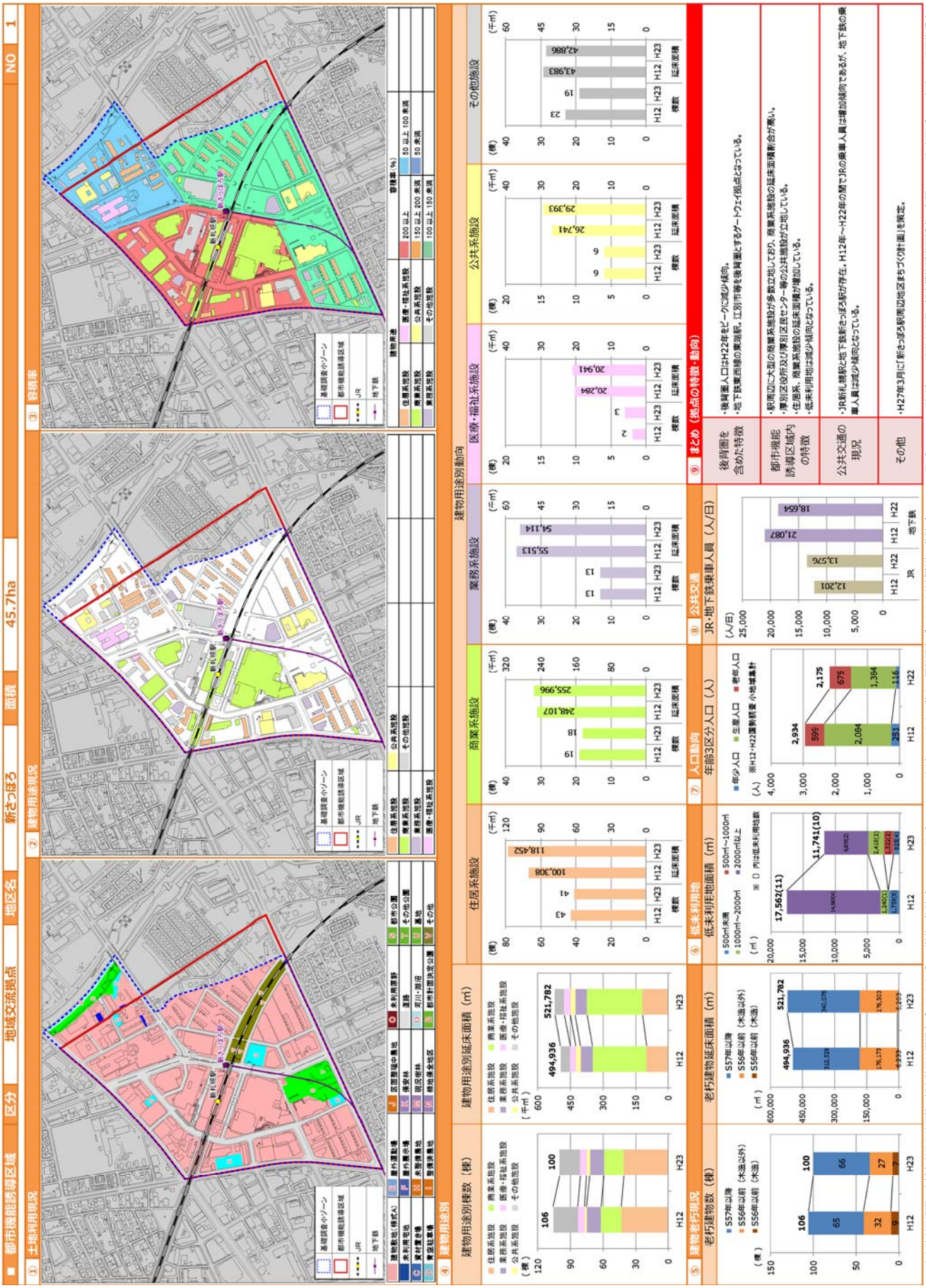

## 16 平岸




## 17 澄川



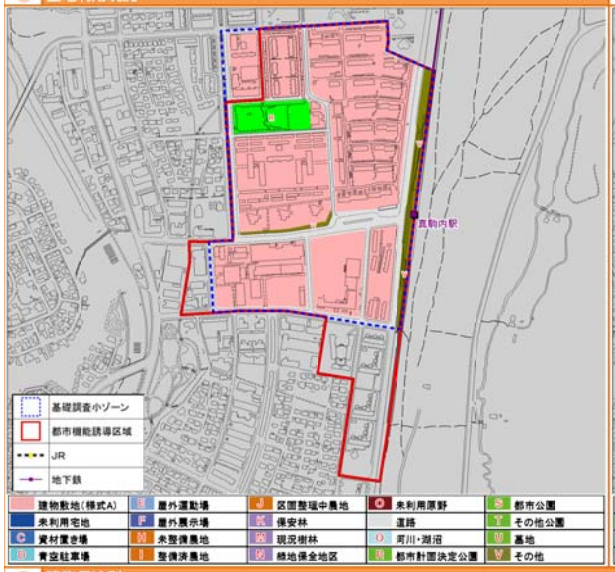
【都市機能誘導区域（地域交流拠点）の土地利用状況等】



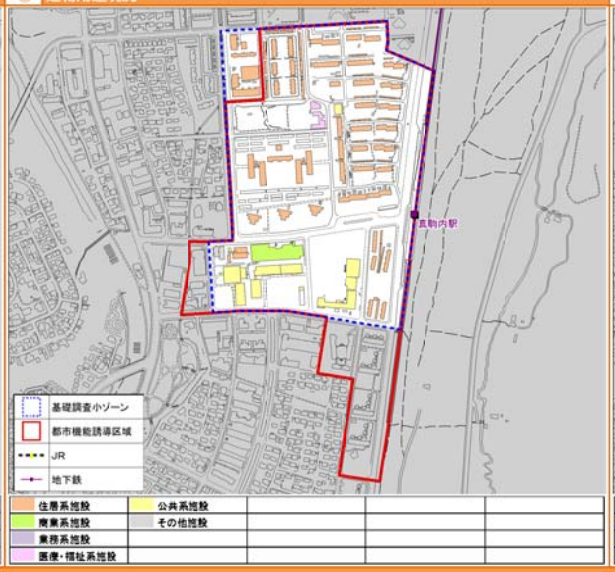

※①土地利用現況～⑥低未利用用地面積：都市計画基礎調査データを小ゾーン単位で集計（H12.3.31 及びH23.3.31 時点）　※⑦人口動向：国勢調査データを小地域単位で集計（H12.10.1 及びH22.10.1 時点）　※⑧公共交通：都市機能誘導区域内の各駅のH12 年度及びH22 年度の一日平均乗車人員を集計（出典：札幌の都市交通データ）

| ■ 都市機能誘導区域 | 区分 | 地域交流拠点 | 地区名 | 真駒内 | 面積 | 31.6ha | NO | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

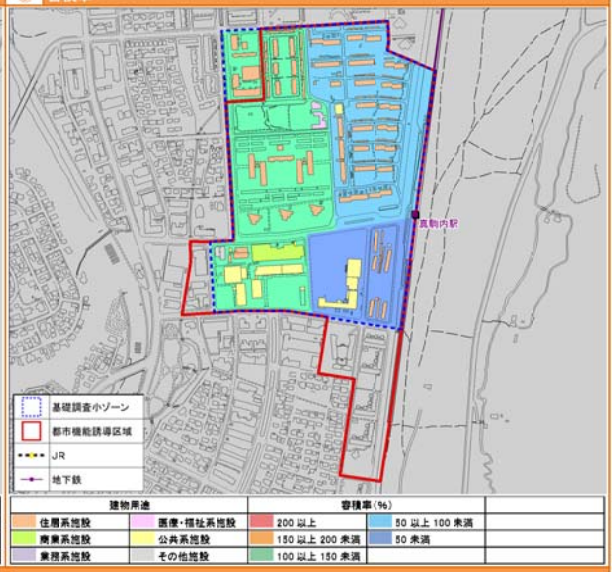
## ① 土地利用現況




## ② 建物用途現況

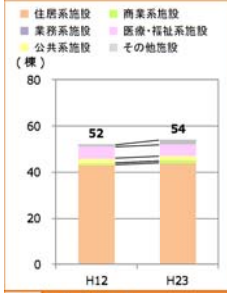



## ③ 容積率

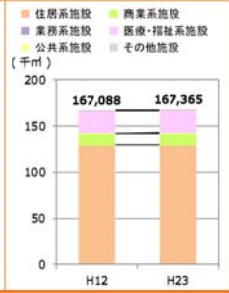



## ④ 建物用途別

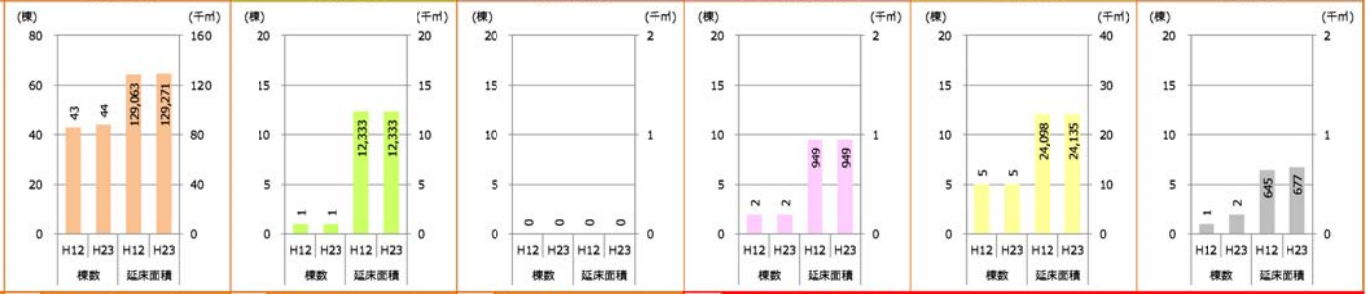
### 建物用途別棟数（棟）




### 建物用途別延床面積（㎡）

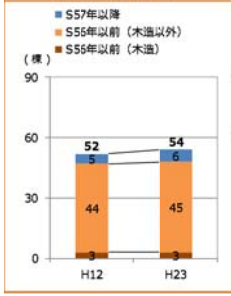



### 建物用途別動向




## ⑤ 建物老朽現況

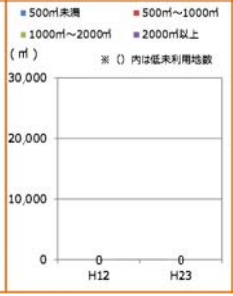
### 老朽建物数（棟）




### 老朽建物延床面積（㎡）

## ⑥ 低未利用地

### 低未利用地面積（㎡）

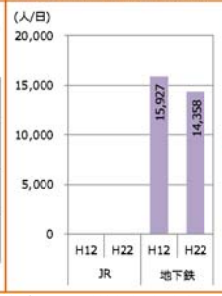



## ⑦ 人口動向

### 年齢3区分人口（人）

## ⑧ 公共交通

### JR・地下鉄乗車人員（人/日）



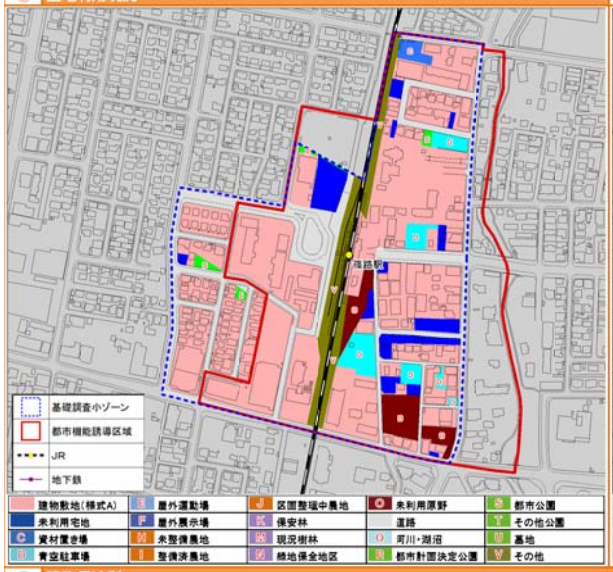

## ⑨ まとめ（拠点の特徴・動向）

| | |
|---|---|
| 後背圏を含めた特徴 | ・H12年～H42年の間では、後背圏人口が全拠点の中で最も減少する。<br>・地下鉄南北線の南端駅。<br>・周囲が山林に囲まれており、定山渓温泉や芸術の森など、自然を生かした地域資源が豊富である一方、後背圏の周囲に市街地の広がりがなく、他の拠点とのつながりも薄い。 |
| 都市機能誘導区域内の特徴 | ・拠点周辺には共同住宅（公営住宅、URなど）が多く、商業・業務系施設が少ない。<br>・南区役所及び南区民センター等の公共施設が立地している。<br>・H12年～H23年の間では、土地利用にほとんど変化が見られない。 |
| 公共交通の現況 | ・H12年～H22年の間で地下鉄の乗車人員は減少傾向となっている。 |
| その他 | ・H25年5月に「真駒内駅前地区まちづくり指針」を策定。 |

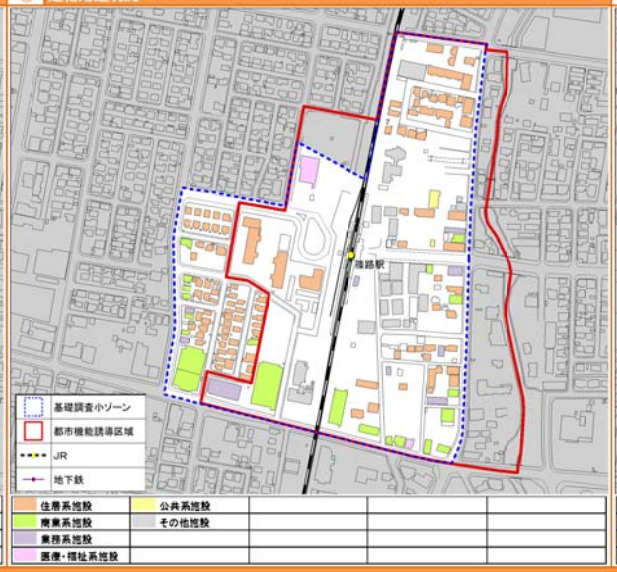
※①土地利用現況～⑥低未利用用地面積：都市計画基礎調査データを小ゾーン単位で集計（H12.3.31 及び H23.3.31 時点）　※⑦人口動向：国勢調査データを小地域単位で集計（H12.10.1 及び H22.10.1 時点）　※⑧公共交通：都市機能誘導区域内の各駅の H12 年度及び H22 年度の一日平均乗車人員を集計（出典：札幌の都市交通データ）

| ■ 都市機能誘導区域 | 区分 | 地域交流拠点 | 地区名 | 篠路 | 面積 | 14.5ha | NO | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

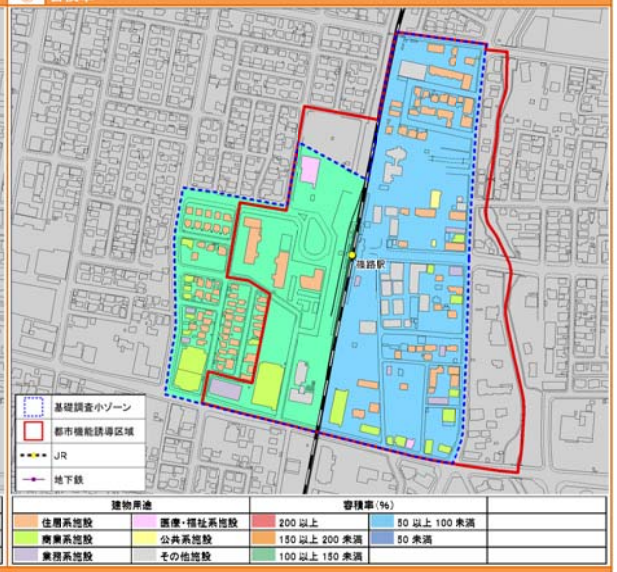
## ① 土地利用現況




## ② 建物用途現況

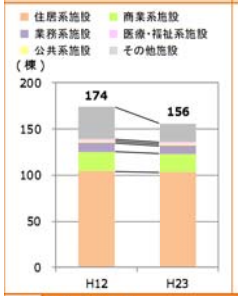



## ③ 容積率

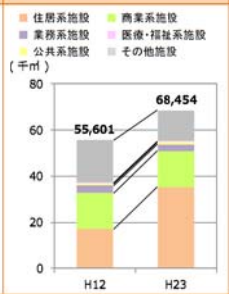



## ④ 建物用途別

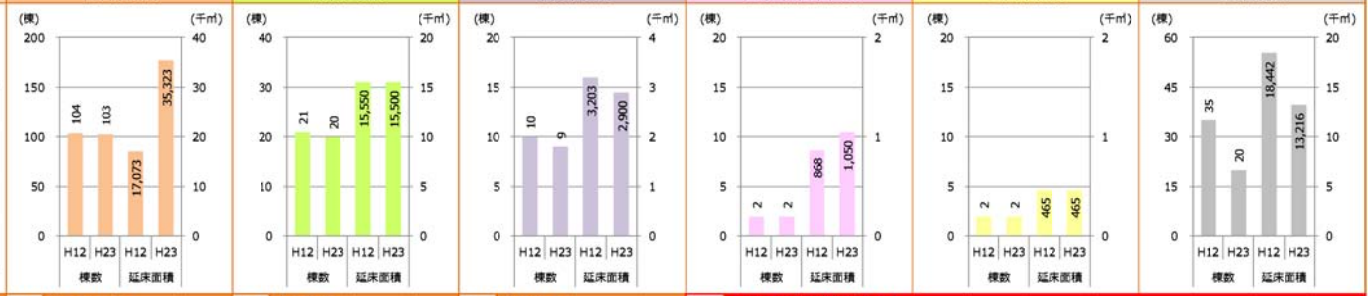
### 建物用途別棟数（棟）




### 建物用途別延床面積（㎡）

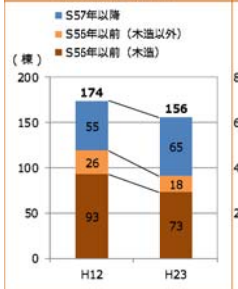



### 建物用途別動向

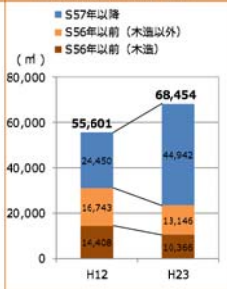



## ⑤ 建物老朽現況

### 老朽建物数（棟）

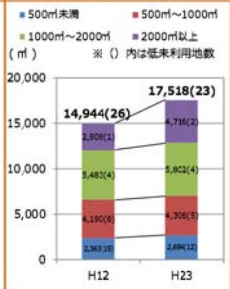



### 老朽建物延床面積（㎡）




## ⑥ 低未利用地

### 低未利用地面積（㎡）

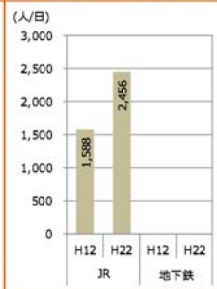



## ⑦ 人口動向

### 年齢3区分人口（人）

## ⑧ 公共交通

### JR・地下鉄乗車人員（人/日）



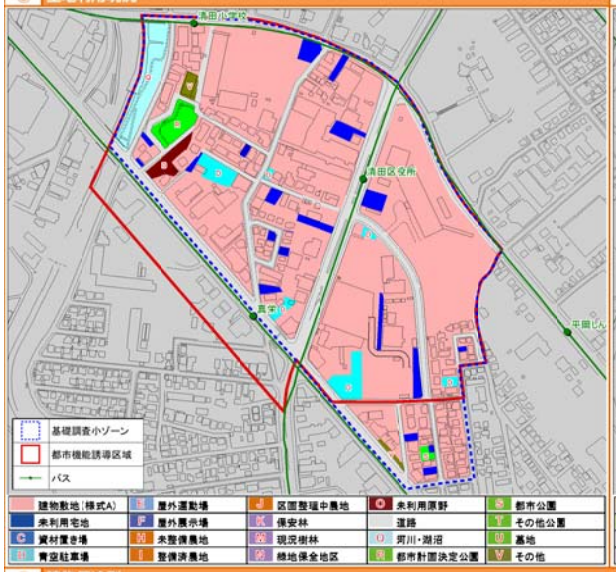

## ⑨ まとめ（拠点の特徴・動向）

| | |
|---|---|
| 後背圏を含めた特徴 | ・後背圏人口は、H32年まで増加傾向が続く。 |
| 都市機能誘導区域内の特徴 | ・住居系施設の延床面積が約2倍に増加しており、区域内の人口も増加している。<br>・建物更新が進み、木造老朽率（延床面積）は大きく減少している。 |
| 公共交通の現況 | ・H12年～H22年の間でJRの乗車人員は増加傾向となっている。 |
| その他 | ・駅西側において実施された市街地再開発事業に合わせて、駅前広場を整備（H20年）。<br>・H26年3月に「篠路駅周辺地区まちづくり実施計画」を策定。 |

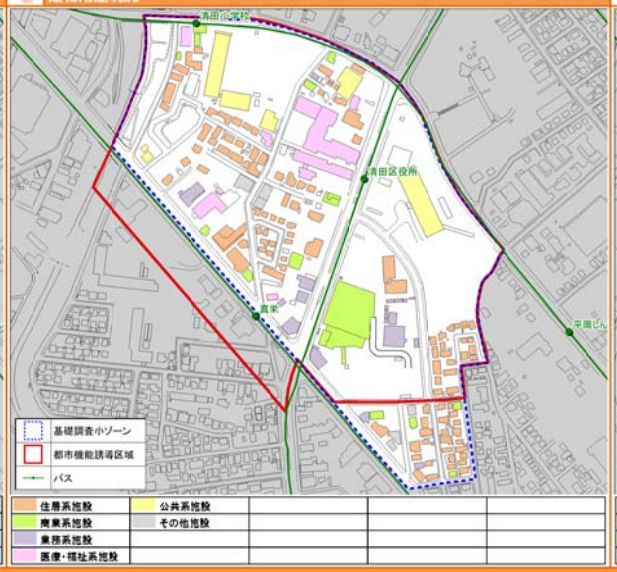
※①土地利用現況～⑥低未利用用地面積：都市計画基礎調査データを小ゾーン単位で集計（H12.3.31 及び H23.3.31 時点）　※⑦人口動向：国勢調査データを小地域単位で集計（H12.10.1 及び H22.10.1 時点）　※⑧公共交通：都市機能誘導区域内の各駅の H12 年度及び H22 年度の一日平均乗車人員を集計（出典：札幌の都市交通データ）

| ■ 都市機能誘導区域 | 区分 | 地域交流拠点 | 地区名 | 清田 | 面積 | 21.0ha | NO | 4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

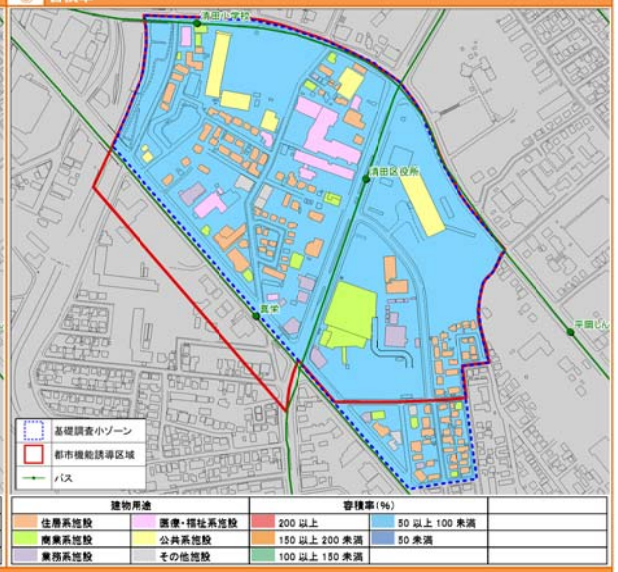
## ① 土地利用現況




## ② 建物用途現況

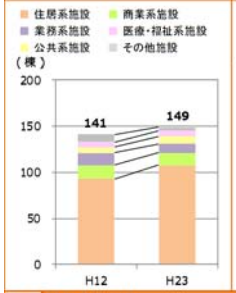



## ③ 容積率

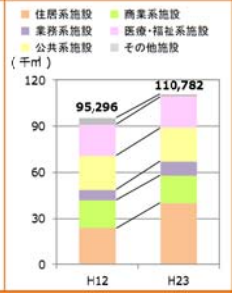



## ④ 建物用途別

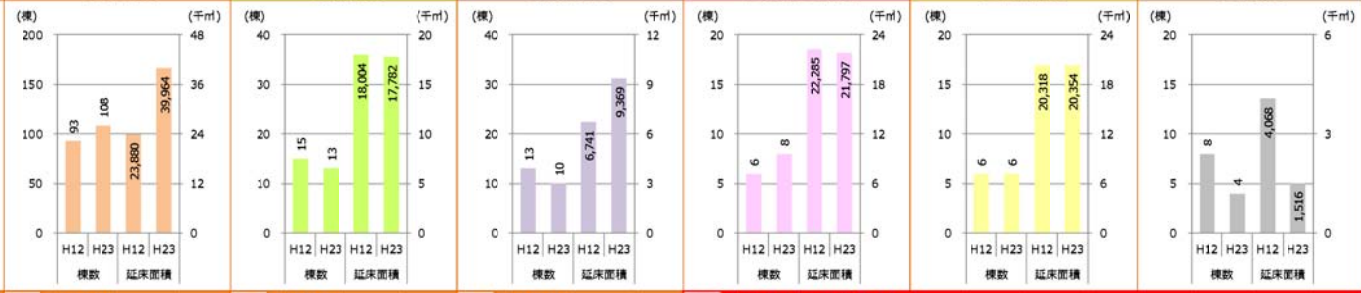
### 建物用途別棟数（棟）




### 建物用途別延床面積（㎡）




### 建物用途別動向



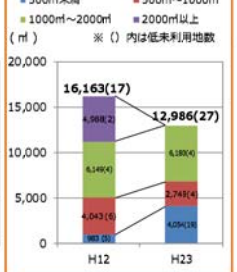

## ⑤ 建物老朽現況

### 老朽建物数（棟）

### 老朽建物延床面積（㎡）

## ⑥ 低未利用地

### 低未利用地面積（㎡）

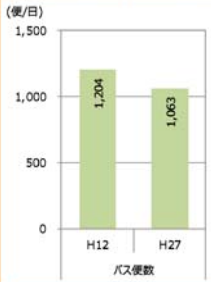



## ⑦ 人口動向

### 年齢3区分人口（人）

## ⑧ 公共交通

### バス便数（平日1日当たり）




## ⑨ まとめ（拠点の特徴・動向）

| | |
|---|---|
| 後背圏を含めた特徴 | ・後背圏人口は、H32年まで増加傾向が続く。 |
| 都市機能誘導区域内の特徴 | ・住居系施設及び業務系施設の延床面積が増加しており、区域内の人口も増加している。<br>・清田区役所や図書館などで構成される総合庁舎が立地している。<br>・低未利用地は減少傾向となっている。 |
| 公共交通の現況 | ・JRや地下鉄等の軌道系交通が存在せず、バス交通のみとなっている。<br>・バス便数はH12年～H27年の間で減少傾向。 |
| その他 | － |

※①土地利用現況～⑥低未利用用地面積：都市計画基礎調査データを小ゾーン単位で集計（H12.3.31 及び H23.3.31 時点）　※⑦人口動向：国勢調査データを小地域単位で集計（H12.10.1 及び H22.10.1 時点）　※⑧公共交通：都市機能誘導区域内に存在するバス停（清田小学校・清田区役所・真栄）に停車するバスの便数（上下線）について、H12 及び H22 のバス時刻表より算出